

テレビに映った人間の映像とその演技に関する乳幼児の認識

Children's recognition of human figures and their play on the TV screen

村野井 均

Hitoshi Muranoi

序

乳幼児のテレビ視聴に関しては、視聴時間の調査や、モデリング理論に基づいた研究がなされてきている。しかし従来の研究では、乳幼児にしか現れないテレビ視聴の特徴について調べられることは少なかった(上, 1969; 秋山, 1980; 水越, 1981)。それは、テレビ視聴の発達を量的変化としてのみ捉え、発達段階ごとの質的变化を対応させなかったことが一つの原因と考えられる。

伊藤ら(1984)は、人間の映像が映し出されるメディアとしてテレビをとらえ、乳幼児がテレビの中の人間に対して反応する様相を捉えようとした。VTRによってモデルテープを映した実験において、テレビに映る人間の映像に対して、乳幼児が近づいたり、あるいは、映像からの働きかけによって行動を誘発されることを示した。つまり、本物の人間に対する行動と同じ反応をテレビの中の映像に対しても行なうことが示されたのである。

この現象は、乳幼児がテレビに映る人間の映像を自分と同一空間内に存在しているとみなしている可能性、すなわち、テレビに映る人間をテレビの内側に実際に存在していると思っている可能性を示唆していた(村野井, 1984b)。

村野井(1984a)は、乳幼児がテレビに映る人間をどの程度実在しているとみなしているのか、交渉可能性を指標としてアンケート調査を行なった。その結果、乳幼児からテレビに映っている人間に話かけると、自分の声が「聞こえている」と思っている乳幼児は、1歳児で78.9%、6歳児でも10.7%いることが明らかにされた。また、テレビに映っている人間が乳幼児のことを見ることができかどうか尋ねた質問では、1歳児の85.7%が「見ている」と答え、6歳児でも14.4%がそう答えていた。つまり、乳幼児は高い割合でテレビに映っている人間の映像と交渉できると思っていることを示したのである。

さらに、「テレビの中の人間はたたかれて痛いか」と

いう質問に対して、「痛くない」と大人と同じような答え方をしている乳幼児の理由を分析した。すると「変身しているから」とか、「我慢している」といったものが含まれていた。つまり、「痛くない」と答えてはいるが、本当はたたいたり、痛がったりしているという答えが混じりこんでいたわけである。したがって、データとして示した以上にテレビに映っている人間が実在していると思っている乳幼児は多いかもしれないのである。また、交渉可能性を認識する次の段階として、演技を理解しなければならぬ段階が現われる可能性が示されたのである。そして、その解明には乳幼児の理由づけの分析が重要な手法であることが示されたわけである。

しかし、交渉可能性に関する調査は保護者が乳幼児に尋ね、その回答を保護者がアンケート用紙に記入するという間接調査であった。その上、理由の分析は自発的に理由を記入した47名のみでの分析であった。

テレビというメディアは、単に人間の映像を映し出すだけではない。ニュースや天気予報のように真実を伝えるものと、ドラマや時代劇のように演技しているものとを放送し続けている。したがって、乳幼児はテレビの中の演技にどのようにして気づいてゆくのか、何を手がかりに気づいてゆくのかという点を、映像との交渉可能性の発達とともに知る必要がある。

インタビューによる調査をする前に、乳幼児が交渉可能性や演技の理解においてどのような理由づけを行ない、どのような年齢差が現われるか把握しておく必要があろう。

目 的

テレビに映った人間の映像と交渉可能であると思う理由にはどのようなものがあり、また、テレビの中で行なわれている演技に乳幼児はどのように気づいてゆくのであろうか。乳幼児に直接インタビュー調査を行なう前に、乳幼児の反応の概略を把握しておくことはカテゴリーを作成するうえで一定の意味があると考えられる。

多数のデータをとるためには間接調査という欠点はあるけれども、被調査者全員に記入を求め、テレビに映る人間

の映像との交渉可能性と、テレビの中の演技に関する認識の発達を把握する。

方 法

日時及び場所

岩手県一関市において1984年11月22日より12月1日に行なった。

調査対象

一関市内の公立、私立の幼稚園および保育園、計7園に通う園児にアンケート用紙を516枚配布し、保護者に記入を求めた。回収率は78.1%であった。したがって、0歳児6名、1歳児9名、2歳児26名、3歳児21名、4歳児76名、5歳児162名、6歳児104名、合計404名について分析を行なった。

この調査は一関公民館が行なった。「一関市の子どものテレビの見方調査」の一部である。

アンケート用紙の作成

アンケート用紙の作成は、村野井(1984a)に準拠している。質問の内容は、Table 1-1の通りである。

質問aは、「テレビに映っている人に、お子さんの言

葉が聞こえているかおたずね下さい」というものである。これは、テレビに映る人間の映像と交渉可能とされているかどうか尋ねる質問である。乳幼児がテレビに働きかけて、実際には交渉できないことをもっとも確認しやすい場面を想定している。

質問bは、「テレビに映っている人は、お子さんが見えているかどうかおたずね下さい」というものである。質問aに比べ交渉可能かどうか、確かめにくい質問である。

質問cは、「テレビの中でたたいている人は、本当にたたいているのかどうかおたずね下さい」というものである。テレビの中の演技に気づいているか確かめる質問である。

質問dは、「テレビの中でたたかれている人は、たたかれて痛いかどうかおたずね下さい」というものである。ねらいは、質問cと同様である。

質問cとdは、前回(1984a)の理由分析において、たたく人のことを尋ねているのか、たたかれている人の痛さをたずねているのか明確でないため、答えに混乱が見られた。したがって、今回は誰について質問しているか明確にするため、2つに質問を分割した。

それぞれの質問は、おのおの理由も記入するように求

Table 1-1 質問の内容

この質問は、お子さんにたずねてその答えを書いて下さい。

a. テレビに映っている人に、お子さんの言葉が聞こえているかどうかおたずね下さい。

たとえば「□□□は、○○○ちゃんの言うことが聞こえているかな？」

1. 聞こえている 2. 聞こえていない 3. その他

1と2を選んだお子さんには、どうしてかその理由もおたずね下さい。

()

b. テレビに映っている人は、お子さんが見えているかどうかおたずね下さい。

たとえば、「□□□は、○○ちゃんを見ているかな？」

1. 見える 2. 見えない 3. その他

1と2を選んだお子さんには、どうして見えているかその理由もおたずね下さい。

()

c. テレビの中でたたいている人は、本当にたたいているのかどうかおたずね下さい。

たとえば、「□□□は、本当に悪者をキックしたりたたいているかな？」

1. たたいている 2. たたいていない 3. その他

1と2を選んだお子さんには、その理由もおたずね下さい。

()

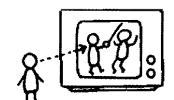
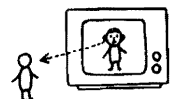
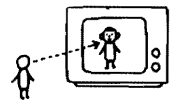
d. テレビの中でたたかれている人は、たたかれて痛いかどうかおたずね下さい。

たとえば、「□□□は、悪者にキックされたりたたかれると痛いかな？」

1. 痛い 2. 痛くない 3. その他

1と2を選んだお子さんには、その理由もおたずね下さい。

()



めている。

なお、このアンケートは保護者が子どもにたずね、子どもの答えを書きとってもらっている。したがって、間接調査であることをあらかじめことわっておく。

結 果

I 量的分析

三肢選択の結果を Fig. 2-1～4に示す。図中、黒色の棒グラフが交渉できるとみなしていたり、演技であることに気づいていない乳幼児の割合である。これに対して、白色の棒グラフは交渉できないと気づいていたたり、演技に気づいている乳幼児の割合である。その他、あるいは無回答は除いてある。また、0-1歳児はすべてその他や無回答であったため、図には入っていない。

(1) テレビに映っている人間との交渉可能性の認識

Fig. 2-1を見ればわかるように、2歳児から5歳児まで、約2割の乳幼児が、テレビの中の人間に話しかけ

ると「聞こえている」と思っている。小学校入学を前にした6歳児でも約1割いる。

一方、「聞こえていない」と思う乳幼児は、2歳児で7.7%しか存在していないが、年齢とともに増えていき、6歳児では76.9%まで到達する。

このように、テレビに話しかけると聞こえていると思っている乳幼児が存在することが再確認された。

しかし、実は、話しかけて聞こえているかどうかは、実際にやってみればすぐ確認できることである。テレビに映っている人間が返事をしたり、振り向いたりするわけではないのである。

ところが、テレビの中に人間がいるかどうかもっと判断しにくいものに、テレビの中の人間は、テレビの外の人を「見ている」かどうかという問題がある。もちろん見ているわけではない。大人はそんなことを考えもしないわけである。しかし、人間の映像を見ている乳幼児にとって、質問aと違い、テレビに話しかけて実際に確かめることができなくなる。働きかけて確かめることができ

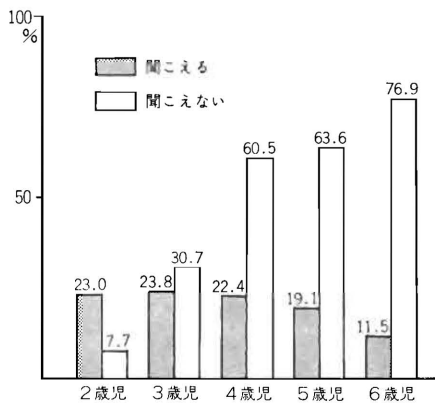


Fig. 2-1 「聞こえる」と思っている子ども

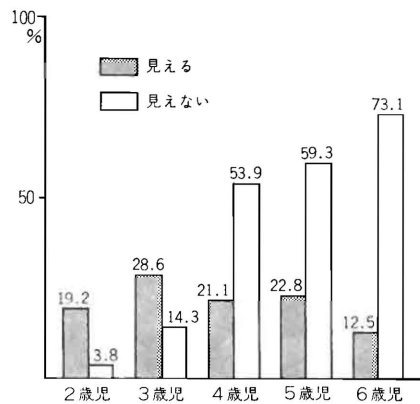


Fig. 2-2 「見える」と思っている子ども

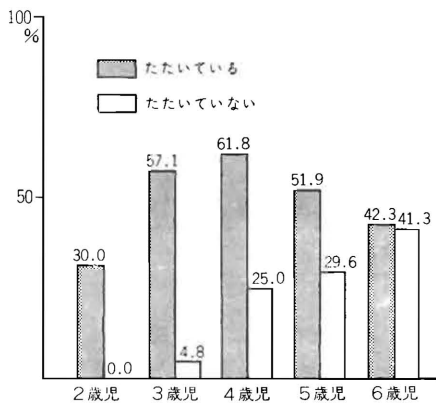


Fig. 2-3 「たたいている」と思っている子ども

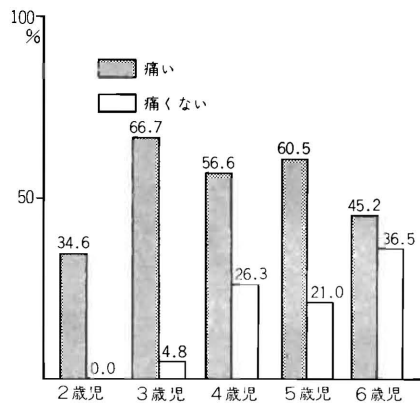


Fig. 2-4 「痛い」と思っている子ども

ないということは、年長の子どもでも、「テレビの中に人間がいる」と思いつづけているかもしれないのである。

Fig. 2-2がその結果である。テレビの中の人間が画面の外のことを「見ている」と思っている乳幼児の割合は、質問aよりいくぶん高くなっている。逆に質問aに比べ「見ているわけがない」と思っている乳幼児はどの年齢でも少なくなっている。特に、年齢の低い2歳児、3歳児では低い割合になっている。

質問aと質問bの交渉可能の認識についてまとめると、テレビの中の人間に声が聞こえたり、テレビから見られていると思っている乳幼児は、2歳から5歳まで、約2割づつ存在していると言える。この乳幼児達は、テレビの中に人間がなんらかの形で存在し、話しかけたり、見られたりという形で乳幼児と交渉できると思っているわけである。のちほど、どうしてテレビの中に聞こえるか、どうしてテレビから見られるか述べている乳幼児の理由の分析を行なうが、もっとはっきりとテレビの中の人間とやりとりができると考えていることが現わされている。

(2) テレビの中の演技の認識

テレビ番組には、事実を伝えるものと、架空の関係で演じているものがある。

テレビの中に人間が実在していると思っている乳幼児にとって、テレビの中の出来事も本当にそこで起こることになるのかもしれないのである。乳幼児はテレビの中の演技にどのようにして気づいてゆくのであろうか。演技とはいっても悲しさや怒りという気分は、大人でも理解しにくい部分である。そのため、もっとわかりやすく乳幼児でも経験したことのある「痛み」をここでは選んでいる。

それが質問c「テレビの中でたたいている人は、本当にたたいているのかどうかお尋ね下さい」と質問d「テレビのなかでたたかれている人は、本当にたたかれて痛いかどうかお尋ね下さい」である。

結果はFig. 2-3, 4に示したようになった。さきほどの質問a「見える」、質問b「聞こえる」に比べて黒色の棒が全般的に高くなっていることがわかる。2歳児では、答えられた乳幼児はすべて「たたいている」、あるいは「痛い」と思っている。3歳～5歳児では半分以上がたたいたり、たたかれたりしていると思っていることがわかる。

「たたいていない」、「痛くない」という演技に気づいた答えは3歳児から少しづつ現われる。年齢とともに増加する傾向にはあるが、6歳児でも半々に分かれているといえる。

Table 2-1 「聞こえない」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
どうしてもテレビだから	0	0	1	5	4	10
無視している	0	0	4	3	0	7
反応がない	0	0	3	7	4	14
番組による	0	0	0	4	0	4
障害物のため	0	0	1	3	5	9
条件がない	0	0	4	11	13	28
見ている人を知らない	0	0	0	3	0	3
ドラマだから	0	0	0	0	1	1
テレビの中に人はいない	0	0	4	6	3	13
映っているだけ	0	0	0	0	3	3
視聴意識	0	0	0	0	0	0
分類不能	0	0	0	0	0	0
誤答	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	5	8	5	18
合計	0	2	42	88	68	200

Table 2-2 「見えない」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
どうしてもテレビだから	0	0	1	0	1	2
無視している	0	0	2	3	5	10
反応がない	0	0	3	3	0	6
番組による	0	0	0	0	0	0
障害物のため	0	0	1	3	4	8
条件がない	0	0	1	11	5	17
見ている人を知らない	0	0	1	1	3	5
ドラマだから	0	0	0	0	1	1
テレビの中に人はいない	0	0	6	4	6	16
映っているだけ	0	0	0	1	3	4
視聴意識	0	0	0	0	3	3
分類不能	0	0	0	3	0	3
誤答	0	0	0	0	1	1
わからない	0	0	7	11	9	27
合計	0	2	32	79	60	173

II 理由づけによる分析

つぎに、理由の分析を行なう。乳幼児が述べた理由はさまざまであった。似た意味内容ごとにまとめたものを、付表1～8として末尾に掲載する。

Table 2-3 「たたいていない」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
どうしても	0	0	0	0	0	0
テレビだから	0	0	2	3	2	7
キャラクター	0	0	0	1	0	1
条件による	0	0	1	0	0	1
まね・ふり	0	1	8	24	23	56
視聴意識	0	0	0	5	12	17
分類不能	0	0	0	0	0	0
誤答	0	0	0	1	0	1
わからない	0	0	3	9	2	14
合計	0	1	14	43	39	97

Table 2-4 「たたかれて痛くない」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
どうしても	0	0	0	1	0	1
テレビだから	0	0	1	1	2	4
キャラクター	0	1	1	2	2	6
条件による	0	0	0	0	1	1
まね・ふり	0	0	11	19	21	51
視聴意識	0	0	1	0	0	1
分類不能	0	0	0	0	0	0
誤答	0	0	1	1	0	2
わからない	0	0	1	4	7	12
合計	0	1	16	28	33	78

Table 2-1～4に「聞こえない」、「見えない」、「たたいていない」、「たたかれて痛い」という理由が分類されている。

(1) テレビに映っている人間との交渉可能性の認識における理由づけ

まず、Table 2-1と2-2について見てゆく。分類の基準は、つぎの通りである。

『どうしても』、『テレビだから』という項目は、理由は書かれてあるが、その根拠が明確でないものである。インタビューの際には、再確認が必要となる回答である。

『無視している』という項目には、「テレビのなかだけで話している」とか「テレビの人が無視している」、「ニュースの人は下ばかり向くから」などのものがある。テレビの中の人間は、乳幼児を無視してはいるが、テレビの中に実在していて、本当は交渉できると乳幼

児が思っていることを示しているといえる。

『反応がない』という項目には「答えがないから」、「笑ってやっても笑ってくれない」、「手を振ってくれない」などのものがある。これらの理由は、乳幼児はやはり様々な形でテレビの中の人間に働きかけていることを示しているといえる。この理由づけも実在していると考えていることを示している。

『番組による』という項目には「おかあさんといっしょは聞こえる」とか「マンガだから」（聞こえない）というものがある。この答えは番組によって区別をつけ始めているのだが、まだテレビの中に人間がいると思っている答えである。

『障害物がある』という項目には、テレビにはガラスの画面がついているため、邪魔になって聞こえたり見えたりできないと考えるものが含まれている。

『条件がない』という項目には「マイクがないから」とか「自分の声を入れる所がない」、「遠くにいるから」といったものがある。

これらの理由を述べた乳幼児たちは、テレビの中の人間に話しかけても「聞こえない」、テレビの中の人間はテレビの外を「見えない」と答えていたわけである。そう答えながらも、上記の理由づけは、ある条件さえ満たせばテレビの中の人間と交渉できると考えていることを示している。つまり、乳幼児は、まだまだ試行錯誤を繰り返しながらテレビというメディアを理解しようとしている段階であることがよくわかるのである。

Table 3-1 「聞こえない」と思う理由の分析

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
条件によって聞こえる	0	0	12	28	22	62
どうしても聞こえない	0	2	21	43	34	100
存在していないため聞こえない	0	0	4	9	7	20
その他	0	0	5	8	5	18
合計	0	2	42	88	68	200

Table 3-2 「見えない」と思う理由の分析

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
条件によって見える	0	0	7	20	14	41
どうしても見えない	0	2	11	39	20	72
存在していないため見えない	0	0	7	6	16	29
その他	0	0	7	14	10	31
合計	0	2	32	79	60	173

『ドラマだから』とか『テレビの中には人はいない』あるいは『映っているだけ』という分類は、演技や放送といった概念が認められる理由づけである。この理由づけは、年齢が高くなると出てきていない。今回の調査では、2, 3歳児の記入が少なかったため、明確でないが、Table 2-1~4を見る限りでは、4歳児以上でないとの理由づけは現われていない。

「聞こえない」あるいは「見えない」と答えているのだが、実は条件さえ満たせば、テレビの中の人間と交渉できている乳幼児の割合を示すため、Table 2-1, 2をそれぞれまとめた表を作成した。それがTable 3-1, 2である。これらの表は大きく「条件によって」実は聞こえたり、見えたりしている。つまり、交渉可能であるという理由と、交渉可能ではないという理由に分類してある。

そして、交渉可能でないという理由も、説明の詳しさによって「どうしても」という理由と、テレビの中に人間は「存在していないから」交渉可能でないという理由に分類してある。「その他」という分類は、わからないという回答や、分類不能ものをまとめたものである。

Table 3-1を見ると「聞こえない」と言っている理由のうち、本当は「条件によって聞こえる」という答えは200人中62人、つまり31.0%いることになる。

同じように、Table 3-2を見ると「見えない」と言っている理由のうち、本当は「条件によって見える」という答えは、173人中41人いる。これも24.9%いることになる。

(2) テレビの中の演技の認識における理由づけ

今までは「聞こえない」、「見えない」という質問に対する理由づけを見てきた。「たたいていない」、「たたかれても痛くない」という演技の認識に対する理由づけも分析すると同じような結果になった。結果はTable 2-3, 4に示している。分類はつぎの通りである。新しい分類は『キャラクター』と『条件による』、『まね・ふり』の3つである。

『キャラクター』とは「正義の味方だから(痛くない)」とか、「大人だから(痛くない)」というものである。

『条件による』とは、刀では切っているが、たたいてはいないとか「強くとたかれると痛い」というものである。これらは条件によって本当にたたいている。つまり、痛がっているという答えである。

『まね・ふり』とは、「ウソッこだから」とか、「たたくまねをしているだけ」といった理由づけである。虚構あるいは演技に気づいた理由づけである。

Table 3-3 「たたいていない」と思う理由の分析

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
条件によってたたいていない	0	0	1	1	0	2
どうしてもたたいていない	0	0	2	3	2	7
演技のためたたいていない	0	1	8	29	35	73
その他	0	0	3	10	2	15
合計	0	1	14	43	39	97

Table 3-4 「たたかれても痛くない」と思う理由の分析

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
条件によって痛い	0	1	1	2	3	7
どうしても痛くない	0	0	1	2	2	5
演技のため痛くない	0	0	12	19	21	52
その他	0	0	2	5	7	14
合計	0	1	16	28	33	78

「たたいていない」、「痛くない」のうち「条件によって」の割合を見やすくしたのがTable 3-3, 4である。「条件によって」の割合は、それぞれ2.0%と9.0%である。

以上からいえることをまとめると、「聞こえていない」、「見えていない」、「たたいていない」、「たたかれても痛くない」と答える乳幼児に、その理由を尋ねると実は聞こえていたり、見えているというものが混じっているわけである。したがって、Fig. 2-1~4にあげたグラフは本来はもっと白い棒グラフが減り、黒い棒グラフが増えることになるわけである。

さて、今までTable 2-1~4について述べてきたが、1つの分類項目については触れずにきた。それは、『視聴意識』という項目である。この項目に入っている回答は「たたいていない」という理由では、「ケガをすると他の番組にでられないから」とか「一度映したものだから」というものであった。「見えない」という理由の中には「テレビ局・スタジオにいる人しか見えない」というものがあつた。「痛くない」という理由の中には「仕事だから」というものがあつた。「たたいていない」という理由の中には「テレビの偉い人に言われたから」というものもあつた。

これらの理由は、今までおもに扱ってきた「テレビの中の人間と交渉できるのか」という考え方では2つの面とらえきれなくなっている。

1つは、テレビというものをメディアととらえ、スタ

ジオの人とかテレビカメラで映すといった言葉が出てきたり、役者とその上役とか、役者の生活（ケガをすると困る）といった点まで考えが及んでいることである。まさに、大人と同じように視聴者としての意識を持っているのではないかと考えられるわけである。

もう1つは、今述べたことと矛盾するのであるが、これらの理由はいかにも大人に教わったことをそのまま繰り返しているようにとれる。乳幼児がテレビ局での番組作製や、役者の仕事のこともまでも本当に理解しているとは考えられないからである。

つまり、この『視聴意識』という理由は、乳幼児が視聴者としての意識を持ち始めている可能性と、乳幼児がテレビを理解するうえで大人がテレビのとらえ方を教えている可能性を示しているのである。

考 察

まず、第一に今回の調査では、乳幼児の理由づけを分析することで、量的分析ではとらえきれない現象を把握することができたといえる。それは、テレビに映っている人間との交渉可能性の認識において、交渉できないと答えつつ、実は条件さえ満たせば交渉可能であるといった理由が現われたことである。理由づけのあいまいさは、認識のあいまいさを示す指標となろう。間接調査ではあるが、インタビューを行なう前に理由づけが分類できたことは一定の成果といえよう。

第二に、今回の調査では、『視聴意識』と命名した理由づけが現われた。これによって、乳幼児のテレビ視聴の発達に、テレビに映っている人間との交渉可能性を確かめる段階から、テレビの中の演技に気づく段階へと進み、そして視聴者としての意識を持ち始める段階へ進んで行くことが仮定できるわけである。

この部分の確認は小学生を対象に調査を続ける必要を示していると言えよう。

そして第三に、視聴意識の形成における大人の役割という今まであまり注意を払われることのなかった領域へ関心を向ける必要を提起したといえる。それは、同じ6歳児でも、一方の子どもは交渉可能性の認識がおぼつかない段階に留まっており、もう一方の子どもは視聴意識までも形成しているという差が現われているためである。テレビは、目に見えない電気や電波によって動くものであるため、乳幼児の探索活動によって理解するには、限界がある。したがって、そばにいる大人に対してさまざまな質問を投げかけてくるだろうし、大人もそれに答えているはずである。大人が乳幼児に何を教えているのか、家庭あるいは保育園でのテレビ視聴場面を観察する必要がある。

謝辞 この調査に御協力いただいた、一関市教育委員会、一関公民館ならびに幼稚園・保育所の先生方、さらに保護者の方々に感謝いたします。

参考文献

- 秋山隆志郎 1980 『映像と教育』 「映像と教育」研究集団編著 第三章 映像の教育効果に関する研究 91-128 日本放送教育協会
- 伊藤玲子・村野井均・吉田倫幸・篠田伸夫 1984 テレビからの働きかけに対する乳幼児の反応とそばにいる人間の役割 日本教育心理学会 第26回総会 98-99
- 上 笙一郎 1969 『テレビと幼児』 明治図書 115-122
- 水越敏行 1981 『視聴能力の形成と評価』 日本放送教育協会
- 村野井均・杉原一昭 1984 a テレビに映った人間像に対する乳幼児の反応の特徴 ―視聴距離と虚構認識を中心に― 筑波大学心理学研究 第6号 49-56
- 村野井均 1984 b 乳幼児のテレビ視聴の特徴とそばにいる人間の役割 発達 19号 79-87 ミネルバ書房

付表1 「聞こえる」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
耳から聞こえた	0	0	4	5	0	9
聞こえているから	1	0	1	2	0	4
わかるから	1	0	0	0	1	2
まっすぐこっちを見るから	0	1	1	2	0	4
その通りに答えるから、お話をするから	0	1	0	2	0	3
反応するから、まねをするから	0	0	1	1	0	2
スピーカーからこっちの音が聞こえる	0	0	0	2	1	3
テレビより大きい声で話せば聞こえる	0	0	0	1	1	2
近づいて話すとか聞こえる	0	0	0	1	0	1
テレビで放送するから	0	0	1	0	0	1
テレビ電番と同じだから	0	0	0	1	0	1
テレビの言っていることをまねする	0	0	0	0	1	1
耳は悪くない	0	0	0	0	1	1
声	0	0	0	0	1	1
わからない	0	3	3	2	0	8
合計	2	5	11	19	6	43

付表2 「見える」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
見ているから	0	0	0	2	0	2
見ている	0	2	0	0	0	2
なんでも	0	1	0	0	0	1
なんとなく	0	0	1	0	0	1
テレビだから	0	0	0	2	2	4
テレビに映っているから	0	0	0	1	0	1
ガラスを通して見える	0	0	0	2	0	2
自分も見えるから	0	0	0	2	0	2
おりこうさんにしているかなと見ている	0	0	0	1	0	1
「顔みているね」(子どもが言った)	0	0	0	1	0	1
まわりの人も「見えますよ」と返事をする	0	0	0	0	1	1
いつも自分の方を見ているから	0	0	0	1	0	1
自分が応援している声が聞こえるから	0	0	1	0	0	1
まねをするから	0	0	0	1	0	1

まっすぐ前を見ていると見える	0	0	0	2	1	3
こちらを見ているから	0	1	2	0	0	3
自分の方を見て言う	0	1	0	0	0	1
日があうときは見ている	0	0	0	1	0	1
人間の時は見える(マンガはだめ)	0	0	0	1	0	1
目で見た	0	0	3	0	0	3
映っているから見える	0	0	1	0	1	2
自分の背が低いから	0	0	0	0	1	1
テレビ電話と同じだから	0	0	0	1	0	1
目がいいから	0	0	0	0	2	2
目があるから見える	0	0	0	2	0	2
テレビのまねをするから	0	0	0	0	1	1
番組は新聞に書いてある	0	0	0	1	0	1
Hも正常である	0	0	0	1	0	1
わからない	0	2	2	2	0	6
合計	0	7	10	24	9	50

付表3 「たたいている」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
なんでも・どうしても	0	1	1	1	1	4
テレビだから	0	0	0	1	0	1
たたいている・キックしている	0	2	3	11	4	20
痛いようだから	0	1	3	7	4	15
音がしているから	0	1	3	8	0	12
倒れる・涙・痛いという	0	0	0	6	1	7
血・けが・死ぬから	0	0	3	1	0	4
動作と音があっている	0	0	0	0	1	1
刑事は強いから	0	0	2	1	0	3
剣などなにか持っている	0	1	0	0	1	2
悪いことをしたから	0	3	7	15	9	34
みんなのため戦う	0	0	0	0	6	6
人を助けるため・怪物に人が殺されるから	0	0	2	0	0	2
悪者だから	0	0	0	2	0	2
怪物とロボットだから	0	1	0	0	0	1
悪者がかかって来るから	0	0	1	0	0	1
良い方と悪い方の戦いだから	0	0	1	0	0	1
子どもが「痛い、痛い」という	2	0	0	0	0	2
本当にやっているから	0	1	0	0	0	1
人間がやっているから	0	0	0	1	0	1

テレビに映った人間の映像とその演技に関する乳幼児の認識

「かわいそう」という たたいて悪いね よその人をたたいてはだ め	0	0	1	0	0	1
マンガだから危なくない 柔らかいものでやさしく たたく	0	0	0	0	1	1
テレビのえらい人に言わ れたから 本当にたたかないとおも しらくない	0	0	0	1	0	1
わからない・無 答	0	0	3	4	2	9
合 計	2	12	31	59	32	136

付表4 「痛い」という理由

	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	合計
どうしても たたかれたから	0	0	1	2	3	6
エーンと泣く、さげび声 をあげる いた そう な 顔 本気でたたく、おもいき りたたく	0	1	3	4	2	10
キック、パンチをしてい る 棒 で た た く ピンピンたたかれている 病院に行ったから 死 ぬ か ら 血・音・コブがでる	1	1	0	6	0	8
弱 虫 だ か ら	0	0	1	2	5	8
悪いことをしたから	0	0	0	3	0	3
自分もたたかれたら痛い から 子どもが痛い痛いという ケンカをしているから 悪物のおじさんはかわい そう	0	0	0	0	2	2
いじめられているから 「かわいそうだね」とい う 自分のことのように思っ ている	0	0	1	1	0	2
強くとたかれると痛い 切られるときは痛い	0	0	0	0	1	1
まねでも少しは痛いから	0	0	0	0	1	1

本当にキックしてきた いろいろ言った 手は強いから	1	0	0	0	0	1
でもマンガだから	0	0	1	0	0	1
わからない	0	0	1	0	0	1
合 計	5	10	32	66	37	150

付表5 「聞こえない」という理由

	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	合計
聞こえない、どうしても 話 は で き な い 聞こえないようになって いる	0	0	1	5	0	6
テレビだから 機 械 だ か ら	0	0	0	0	3	3
テレビの中だけで話をし ているから こっちを見ていないから テレビの人がうるさいか ら 耳 が な い か ら テレビの人が無視して いる	0	0	0	0	1	1
答えがないから	0	2	18	38	30	88
マンガだから 絵 だ か ら おかあさんといっしょは 聞こえる	0	0	2	0	0	2
フタ・ガラス・ブラウン 管があるから	0	0	1	7	4	14
遠くにいてるから マイク・自分の声を入れ るところ・線がない 電波がとどかないから	0	0	0	2	0	2
テレビを見ている人はい っぱいいる 会っていないから	0	0	0	1	0	1
ドラマだから	0	0	0	0	1	1
テレビに映っている人 には聞こえない テレビの中に人はいない テレビの中にいるから テレビの中にはだれもい ない	0	0	4	9	10	23
	0	0	0	1	3	4
	0	0	0	1	0	1
	0	0	0	2	0	2
	0	0	0	1	0	1
	0	0	0	0	1	1
	0	0	4	1	0	5
	0	0	0	0	3	3
	0	0	0	3	0	3
	0	0	0	2	0	2

放送・映っているだけ	0	0	0	0	3	3
わからない	0	0	5	8	5	18
合計	0	2	42	88	68	200

付表6 「見えない」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
どうしても	0	0	1	0	1	2
テレビだから・機械だから	0	2	9	39	19	69
テレビには見えない	0	0	1	0	0	1
テレビの中で話をしているから・夢中だから	0	0	0	1	1	2
テレビの中の人テレビの中の人を見ている	0	0	1	1	0	2
テレビ局のカメラを見ているから	0	0	0	0	2	2
ニュースの人は下ばかり向くから	0	0	1	0	0	1
カメラに向かって話しているだけ	0	0	0	0	1	1
みえないようにしている	0	0	0	1	0	1
自分を見ていない	0	0	0	0	1	1
振り向いてくれない	0	0	0	1	0	1
笑ってやっても笑ってくれない	0	0	0	1	0	1
テレビの人が来ないから	0	0	1	0	0	1
自分の目があわない	0	0	0	1	0	1
手を振ってくれないから	0	0	1	0	0	1
自分の名前を呼ばない	0	0	1	0	0	1
フタ・ガラス・画面・ブラウン管がある	0	0	1	3	4	8
テレビに映されていないから	0	0	0	0	1	1
テレビ局の人がいないから	0	0	0	1	0	1
自分のそばにカメラがあれば見える	0	0	0	1	0	1
そばにいない・遠くだから	0	0	1	9	4	14
テレビを見ている人の家を知らないから	0	0	0	0	2	2
自分のことを知らないから	0	0	0	0	1	1
自分の名前がテレビの人にはわからないから	0	0	0	1	0	1
見ている方は家にいるから	0	0	1	0	0	1
ドラマだから	0	0	0	0	1	1

テレビの中だから・中とはちがう	0	0	3	2	0	5
人じゃない・本物じゃない	0	0	1	1	0	2
テレビだから見えるわけではない	0	0	2	0	0	2
みえたらへんだ	0	0	0	0	1	1
テレビカメラで映したから	0	0	0	0	1	1
テレビの中に人はいない	0	0	0	0	1	1
テレビとは別だから	0	0	0	1	0	1
絵・写真だから	0	0	0	0	3	3
映っているだけ	0	0	0	1	0	1
放送・映っているだけ	0	0	0	0	3	3
テレビ局・スタジオの人しか見えない	0	0	0	0	2	2
見せているものだから	0	0	0	0	1	1
聞こえないから	0	0	0	1	0	1
しましきがあるから	0	0	0	1	0	1
遊んでいるから	0	0	0	1	0	1
目と目があう	0	0	0	0	1	1
わからない	0	0	7	11	9	27
合計	0	2	32	79	60	173

付表7 「たたいていない」という理由

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	合計
テレビだから	0	0	1	2	1	4
機械だから	0	0	1	0	1	2
機械で映しているだけ	0	0	0	1	0	1
やさしい人だからたたかない	0	0	0	1	0	1
刀では切っているが、たたいていない	0	0	1	0	0	1
たたくふり	0	0	1	6	15	22
劇だから・ドラマだから	0	0	2	9	3	14
うそっこ・まねだから	0	0	1	5	0	6
マンガだから	0	0	1	0	1	2
やさしくたたいている	0	0	0	1	1	2
あたっていないのに倒れる	0	0	0	1	1	2
生きかえる・また出てくる	0	1	0	1	0	2
死んだふり	0	0	1	0	0	1
押ししているだけ	0	0	1	0	0	1
音は陰で出している	0	0	1	0	0	1
プロレスはたたくが、他はうそ	0	0	0	0	1	1

テレビに映った人間の映像とその演技に関する乳幼児の認識

いたい顔をしていない カッコよく見せるためや っているだけ	0	0	0	1	0	1
いたくすると死ぬ・けが をするから	0	0	0	5	9	14
ケガをすると他の番組に 出られないから	0	0	0	0	2	2
一度映したものだから	0	0	0	0	1	1
悪いことをするから	0	0	0	1	0	1
わからない・無答	0	0	3	9	2	14
合 計	0	1	14	43	39	97

付表8 「痛くない」という理由

	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	合 計
ど う し て も	0	0	0	1	0	1
テ レ ビ だ か ら	0	0	1	0	2	3
機 械 で 映 し て い る か ら	0	0	0	1	0	1
強 い か ら	0	1	0	1	1	3
人 形 だ か ら	0	0	0	0	1	1
ヒ ー ロ ー は 痛 く な い	0	0	0	1	0	1
大 人 だ か ら	0	0	1	0	0	1
初めは痛いになれる	0	0	0	0	1	1
本当にたたいてはいない	0	0	4	0	18	22
ふ り ・ ま ね だ け	0	0	0	13	0	13
ウ ソ ッ コ	0	0	5	0	0	5
痛くすると死んでしまう から	0	0	0	3	0	3
弱くたたくから少し痛い	0	0	0	2	1	3
芝居・ドラマだから	0	0	0	1	1	2
押すだけだから	0	0	1	0	0	1
ケンカしていないから	0	0	1	0	0	1
途中でとめる	0	0	0	0	1	1
仕 事 だ か ら	0	0	1	0	0	1
たたいているようにみえ るから	0	0	0	1	0	1
痛いのはあたりまえ	0	0	1	0	0	1
わ か ら な い	0	0	1	4	7	12
合 計	0	1	16	28	33	78